

令和5年度 第1回静岡市中小企業・小規模企業応援会議 議事録

開催日時	令和5年12月21日（木） 10:00 ～ 12:00
開催場所	静岡市役所清水庁舎4階 応接室
出席委員	青山座長、竹内副座長、小川委員、鈴木委員、住川委員、高橋委員、手塚委員、中野委員、仁科委員、山崎委員（10名）
欠席委員	赤堀委員、佐藤委員、深田委員、堀田委員、八木委員（5名）
静岡市出席者 （事務局）	桐野産業政策課長、鈴木課長補佐兼企画係長、藪主任主事

1 開会

- ・開会に当たって、以下2点について報告と確認を行う。

①委員の出欠席状況について

- ・委員の過半数が出席していることを報告した。

②議事録の作成について

- ・議事録を作成し、市ホームページで公開することを委員から了承を得た。

2 青山座長 挨拶

- ・久々のリアル開催ということで、お集まりくださりありがとうございます。新しく委員になられた方も4名いらっしゃって、そのうちの3名が今日出席されていますが、冒頭、そもそもこの会議はどういうものかというところからお話します。
- ・静岡市中小企業小規模企業振興条例の冊子とパンフレットを皆さんにお配りしました。この中でうたわれているのが、この場の意見聴取をしてそれを政策に生かしたいという、ざっくり言うとそのような感じです。ここに書かれているとおり、平成31年に振興条例ができました。その後、この応援会議が設置されました。
- ・前文の最初だけ読み上げます。「静岡市は南アルプスから駿河湾に至る、豊かな自然環境に恵まれ、また東西の交通の要衝という地理的な要件も相まって、古くから文化的、経済的に重要な拠点として発展してきました。今日、この町では、駿府の職人の技術を受け継ぐ木工業が栄え、また、清水港の国際化に伴って造船業、食品関連産業、機械器具製造業などが発展し、それら多様な製造業が現在におけるものづくりの拠点を形作っています。さらには、古くから人や物の交流により育まれてきた全国屈指の商都として、卸売業や小売業、サービス産業が栄えるなど、幅広い分野の産業が多彩にバランスよく集積しています。」あと続きますが、また後ほど皆さんぜひ読んでください。また、第11条の3に、「市は、地域の経済の持続的な発展のため、創業、または新規事業の創出の支援に関し、必要な施策を講ずる。」とあります。
- ・次に第13条ですが、「市長は、前条の計画に基づく基本的施策の実施に当たっては、その施策を効果的に実施するため、中小企業、小規模企業等を中心として運営される会議を活用し、その意見を聴取するものとする。」ここが応援会議のもとになっています。その次の第14条。「市は中小企業、小規模企業等の振興に関する施策を推進するために、必要な財政上の措置を講ずるよう努める。」そんなことが条例に書いてあります。この応援会議はどうして生まれたのかということが条例を読めばわかりますので、ぜひ、後ほどお読みく

ださい。

- ・意見聴取ということではありますが、よくある表面的な意見だけではなく、お互いが支援機関の立場の方、委員の方、いろんな立場の上でのご意見もおありだろうし、一静岡市民としてのご意見もおありだと思いますので、なるべく報告の会議ではなく、意見をお互いに交わし合うような場にしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
- ・事務局の行政の方も2年とか3年で変わっていきます。もちろんこちらのメンバーも変わっていくので、魂をどうやって受け継いでいくかという部分も課題になると思いますので、よろしくお願いいたします。

3 自己紹介

4 報告

(1) 第3次静岡市産業振興プランについて

【事務局】資料1を用いて説明

○質疑・意見交換等

【青山座長】

- ・単なる報告に終わっていませんね。今お聞きして、この基本方針も含めて、わかりやすくいいプランだと思います。皆さんからご意見、質疑応答を含めてお聞きしたいと思います。
- ・この実行計画は、どなたが作るのですか。

【事務局】

- ・全庁的に照会をかけて、各局の意見を聞きながらまとめています。市で言うところの産業振興というのは経済局が所管になりますが、実行計画に記載してあるように、所管課等と書いてありますが、様々な局の事業が組み合わされてまとめられているものです。

【青山座長】

- ・ありがとうございます。
- ・皆様の方から何かご質問、ご意見おありでしたらどうぞ。

【仁科委員】

- ・会長がおっしゃるように非常によくできていると思います。あと、これから将来静岡市の産業をどうするかということについて非常に問題意識を高く持っており、しっかり作ってあると思いました。この事業間の連携とか取組の部分は何かありますか。

【事務局】

- ・進行管理の中では、今年から経済対策会議という会議を組織しています。そこで関係局の幹部（局長クラス）の中でそうした協業ですとか、局のセクションの枠を超えた連携というのは担保していくということを考えています。

【仁科委員】

- ・全市的な方向性とか、あるいは今の取組というのはわかりましたが、皆さんも多分少し感じていると思いますが、広い静岡市は地域によって産業構造など地域色が違います。地域間の連携はありますか。

【事務局】

- ・地域プランは産業振興の視点では作成していません。

- ・各区の方で、まちづくりプランというものを作成しています。これは企画局です。それはまちづくりなので、産業振興だけではありません。

【仁科委員】

- ・消防設備を点検するサービス業の業種にいますが、座長とかあるいは副座長、産業、業種によって事情が違ってきます。さらに言うと、会社の規模、職種とか、地域的な要素を入れると、非常に複雑な形になっています。その複雑な中で、繋げていく方法論的なものは何かやっていますか。

【事務局】

- ・今おっしゃられたその業種ごとの属性もそうですし、業種の枠組みを超えた連携も必要になってくると思いますので、そうした支援を、産学交流センター、ビネストの方でもやっております。ただ一つ一つの業種に対する支援は何かと言われると、正直申しましてそこまで細分化したようなスキームは用意ができていないというのが現状ですけれども、例えば製造業であれば、このプランの下に、ものづくり振興計画という計画があったり、あるいは山間地の振興という意味ですと中山間地振興計画もありますが、やはりどうしても、特にサービス業というのはものすごく広く、その中でもまた様々な業種、扱っているものが「モノ」ではないという、そうした中でこのサービス業の振興をどう図るかというところが課題としてあると認識しております。

【仁科委員】

- ・会長が先ほど、この計画を誰が作ったかということをお聞きになって、多分その趣旨として、議会に報告するとか、予算要求するときに、これに入っていたら予算が付きやすくなるとか、要するにこのプランの位置付けの理解をどういうふうにしたらいいでしょうか。

【事務局】

- ・冒頭申し上げたとおり、総合計画の直下にある、経済産業でいうと最上位計画なので、議会にも報告はしています。またその予算上の裏付けという意味で言いますと、自動的に予算が付くという話ではありません。

【青山座長】

- ・今のやりとりの中で一点だけ、振興条例の基本的な考え方で、支援してくださいというふうに、上から降りてくるのを待つというよりも、中小企業それぞれが何らかの自分の経営課題に応じていろいろやっていく中で、こんなプランを考えたとか、そんなポジション取りだということを確認したいです。
- ・どなたか質問はありますか。次にもう一つ説明していただく予定ですので、それも終わった後で、それぞれご意見をお伺いします。このプランについて質問がなければ、次に移ります。

【手塚委員】

- ・我々はどういう立場で聞けばいいでしょうか。今まで第二次プランがあって二次の実績があって、そのときの反省や課題があって、それで三次になりますよと説明してくれないと、変えたところや継続することについて話があった方が理解できたのかなという気がしました。

【事務局】

- ・それを昨年度にかけてこの会議を通じてやっております。どうしてもオンライン上ということで、なかなか現場感・自分事感が出ないところはありますが、昨年度この会議の中でも、二次プランを振り返りながら、三次プランをどうしていくという議論を2回ほどさせていただきました。すみません、本日そのくだりまでご説明申し上げませんでした。そうした流

れの中で三次を作ったものです。

【小川委員】

- ・私は今回初めて参加しましたが、平成 31 年の振興条例ができたぐらいから、静岡市と商工会もそれに基づいて、いろんな支援やいろんなプランを考えて、それについて 1 年に 1 回意見交換会を開いています。それがプランにつながっていたことが、会議に参加しないとわからなかったのも、今日こういう会議でこういう意見が出てこういうプランがあつてということが理解できたので、これから参加していろいろな意見を聞きたいです。
- ・個別の事業になりますが、移住とかスタートアップの創業とかっていうのは、コロナで非常に皆さん苦労されて、廃業された方もあります。今年から当商工会でも、創業塾というものを初めて開催して、それは静岡市といろいろなプランを出してやらせていただきましたが、参加する方が熱心な方で、7 人でした。それは周知不足もありますが、商工会地域なので定期的に 10 人ぐらいで、マンツーマンみたいな形でやりたいと思っていましたが、実際 10 月に創業塾が終わってから、創業した人がもう 2 人相談に来て、創業に繋げることができました。
- ・移住についても、静岡市に移住してきてもやはり仕事がないと生活できないので、そこと比べられて、創業と移住とかいろいろ連携しながらやれると、今は別々になっているので、そういった中で他の市では創業者に対して支援金があったりするので、そういったものにも繋がれたらなと思いました。

【事務局】

- ・ありがとうございます。まさにそのとおりだと思います。単に補助金があるから移住してきてというだけでなく、そのきっかけというか、そこに至るまでのところのサポートがどこまで寄り添ってできるかという話だと思います。そこは私どもとしても課題感を持っており、次の事業に生かしていければというふうに考えております。

【中野委員】

- ・次の共創というテーマについて、基礎知識を確認したいです。今お示しいただいたこの産業振興プランは、産業振興の最上位計画ということでした。その中で、いの一冊に書いてある共創で、基本施策として産業振興プラットフォームについて書いてあります。今まで会議の中でも触れられていたかもしれませんが、確認の意味で、産業振興プラットフォームっていうのは、具体的にどのような取組をされているかご教示いただきたいです。

【事務局】

- ・こちらは二次プランのときにあったもので、基本的には金融機関も含めていろんな産業支援機関の皆さんと定期的に集まって、それぞれが抱えている具体的な案件というのも含めて、それを皆さんの持っているリソースを使ってどうやってサポートができるのかというような会議・取り決めをしていく場としてスタートしましたが、正直うまく機能しませんでした。会議体のようになってしまったということですね。
- ・定期的に会議をやって、そこに集まって報告するという形だと、それだけで終わってしまうので、もう少し機動的に流動的に動けるような形として、下に書いてありますが、今年からスタートアップ事業を動かしています。この中で今まさにそうした関係者が一体になってスタートアップを支援するという枠組みの中で、そういうイノベーションエコシステムを作るという取組を今進めているところです。そうした枠組みを絡めながら、この新しいプラットフォームを作っていくように考えています。今現在何かが三次で始まって動かしているというものではありません。

【住川委員】

- ・また後ほど出てくるかと思いますが、共創という考え方に基づいてそれぞれ、単独ではなかなかなし得ないようなことが非常にきめ細かな項目として落とされておりますので、感想になってしまいますが、連携という面で中小企業組合の活用を検討していただきながら、この振興プランのお手伝いができるかなと感じました。

【高橋委員】

- ・私も最初から出ている身として意見を申し上げますと、この産業振興プラン自体はこういうものだろうなと思っていますので全く問題ないと思っています。私が気にしていたのは、この応援会議というのは、こういうのとは別に、もうちょっと皆さんが熱くなって、先ほど言われた静岡愛とか、あるいは人材育成だとか、DXの推進だとかいう、個別にというか、もうちょっと幅広く静岡を盛り上げようという熱気があったと思います。プラン自体に全く異論はありませんが、その熱気の部分と、こういうふうに綺麗にまとめられた部分とが、それぞれどういうふうにして落とし込まれたかという、それだけがちょっとわかりづらいと感じています。

【山崎委員】

- ・私も高橋さんと同じように思っていました。よくよく見てみると、私達の意見も入っていると思われるようなところもあり、実際のところどうなのかわかりませんが、多分そうじゃないかなと思いつつ見ていました。
- ・私が最初の方から言っていて、経済局の方もお話をしましたが、11月の17、18、19日でオープンファクトリーの取組が静岡市で初めて実現できました。これも静岡市さんは多分前からやりたいと思われていたことだと思いますが、これは共創の代表的な取組で、プランの中をほぼ全部を網羅しているイベントでした。
- ・県外の方も来られて、スタートアップの方々も多様な人たちが来ました。大学の学生さん、大学も自分たちから手を挙げて一緒にやりたいと言ってくれました。大学も専門学校も、大企業さんもそうです。中小企業もそうですね。みんな「楽しそうだから」ということと、そのメリットを自分たちで感じて、入ってきてくれました。こういう、楽しそう、面白そうなところにスタートアップの人たちとか若手の人たちが入ってくるのではないかと思います。
- ・今回、取組に静岡市さんが後方支援をしてくださって、それが実現できたのは、多様な人たちの集まりの実行委員会だったからだと私は思っています。いろんな意見、自由な発想。そこに、真ん中のところに最初から市役所の人たちが入ってしまうと、スピード感も遅かっただろうし難しかったかなと思いますけど、そこによそ者や若者が入って実現できたということなのかなと思うので、しっかりやっていくのも大事だと思いますが、自由な発想でやれるようなことがプランの中に入ってくるといいなと思いました。

【青山座長】

- ・先ほど手塚委員から第二次プランの反省はどうしたといった話がありましたが、山崎さんには発信力があるので、こうやって素晴らしいものができましたという発信をしていただけるとありがたいです。
- ・要するに、指示でやったわけではないけれども、こういう思いが、プランと合致したみたいな話ですので、ぜひ発信してください。

【山崎委員】

- ・静岡はものづくりの市ですので、それを発信し、静岡愛を次の世代につなげていくのも目的の一つでしたが、子供たちも結構来ていただきました。ものづくりを楽しんでいただきましたが、まだゼロイチで、第1回目だったので、全体的には3日間でお客さんは1,000名程度でした。ものづくりの静岡愛をもっと知ってもらいたいし、県外のお客さんを誘致したいと思います。

【青山座長】

- ・山崎さんみたいな、ネットではなく現場の企業がやっているのはすごく大事だと思います。

【山崎委員】

- ・実はDXも活用して広報を行っています。実行委員の中には、そういったことに詳しい方が何人かいます。例えば、私たちには資金がないため、特別な投資をしたわけではなく、シンプルな手法ですが、大勢の方が関わったので、その情報を一斉に流すためにアプリを使用しました。一般的なものですが、Slackを使用しました。

【鈴木委員】

- ・重点目標の取組のところが非常になるほどなあとと思っています。私の業種においては、1番、2番、3番の項目が特に関係が深いです。例えば、新しい研究機関が設立されたり、静岡には食品業界が多いので、そのための建屋の建て直しが行われたりしています。また、静岡の市民や企業だけでなく、皆と一緒に研究開発を進めるという取組も感じています。
- ・少し趣味の話になってしまいますが、私はプラモデルに興味があります。知り合いがモニュメントを作っている関係で、企業としても1番、2番、3番は実感していますが、4番、5番の取組に関しては、少し独立している印象を受けます。確かにモニュメントの種類が増えて良いことだと思いますが、ホビーショーで来訪する方が昼食にチェーン店を選んでいる現状を見ると、静岡の豊かな食文化をもっとアピールできるのではないかと思います。

【事務局】

- ・今のお話からすると、特に4番、5番の話が中心ですね。ホビーショーの際に、地元の要素があまり見受けられなかったという点ですかね。

【鈴木委員】

- ・ツインメッセ会場に直行してしまい、地元の魅力がうまく伝わらないように感じました。例えば、静岡駅から会場まで無料のバスが運行されていて、全てがそこで完結してしまっている状況です。

【事務局】

- ・ホビーショーの中心は模型協会さんですが、彼らもこの点を課題と捉えています。今年はモニュメントを活用したスタンプラリーを試行的に導入し、街への誘導を試みています。今後ブラッシュアップを続けていく必要があると思います。
- ・例えば小学生を呼んで、ホビーショーの期間の1日は地元の小学生の体験の日に設定して5,000人ぐらい呼び込むですとか、そうした取組も併せて進めてはいるところですけど、そういった取組としてはあるにしても、一体感という部分が見えないのはあると思います。

【青山座長】

- ・4番、5番が得意な竹内副座長にも感想や質問をお願いしたいです。

【竹内委員】

- ・まず、今ここで見ていて、最初の会議らしい感じからだんだんと熱を帯びて、いつの間にかクロストークが始まっているのが素晴らしいと思いました。これがこの会議の良さだと思います。副座長として、今日はBGMがなかったのが少し残念でして、時にはロッキーの音楽をかけて、皆さんが少し血気盛んになってしまうかもしれませんが、そうした空気感もやはり

大事だと感じました。それに、皆さんも今まで静岡愛や未来志向といったテーマに取り組んできたことが、産業を振興する側、つくる側としてのエネルギーになっているのだと思います。それが行政側の支援にどのように反映されているのか、またそれを見えやすく、理解しやすくすることがポイントだと思います。つまり、ここにいる以外の人たちにどう伝えていくかという点が非常に重要だと思います。だからこそ、文字以外の手段で何かしらの熱を帯びさせる必要があるのかもしれませんが。例えば、この「第三次静岡市産業振興プラン」は令和 12 年、すなわち 2030 年までのものですが、企業側なら「ビジョン 2030」などと呼び、2030 年を目標にしています。そのため、基本施策を実行する先にいるスタートアップや中小企業側の共通言語と少しでも合わせる必要があるかもしれません。

- ・また、どう面白く見せるかも課題です。クリエイターに依頼して面白い表現を考えると、生成 AI を活用してプレゼンテーションをより熱のこもったものに変えるなど、表現を工夫するだけで多くのことが変わっていく素地になるのではないかと思います。

- ・観光に限らず、多くの取組が DX や人手不足といった問題を横断しています。だからこそ、支援体制も多面的なアプローチが必要です。例えば、A と B と C が関わる場合、各支援先をつなぐハブのような存在が重要で、それがうまく機能しないと産業振興に支障が出るのではないかと感じます。

5 議事

【青山座長】

次は「共創と地域課題の解決」です。

【事務局】

- ・今更ではありますが、共創による地域課題の解決が今日の議題です。昨今の環境変化に対処することが市内事業者や行政にとって課題となっており、その解決策として共創がプランの一部に盛り込まれています。堅苦しい議論ではなく、この資料を酒の肴にでもして、ざっくばらんに話し合っていただければと思います。その上で、行政として必要な支援をどう行うかを考え、具体的な支援の方向性を見つけないかと思っています。

【青山座長】

- ・このレジュメの下に課題対応例みたいなものがありますが、10 月に山崎さんと私と鈴木さんと竹内さんと事務局で話をしたときのアイデアの一部です。今度の応援会議をどうするかという話の中で、自分たちの課題や実施している取組について、30 分か 40 分ぐらいで六つくらい出てきました。そのうちの二つがレジュメに記載されています。
- ・共創というと、ものすごく言葉に縛られがちなので、フリートークで、現状こうだよとか、皆さんもそれぞれの立ち位置のお仕事や、ご自分の個人的な趣味も含めて、共創に繋がる場になれば面白いですね。いかがでしょうか。

【手塚委員】

- ・ここに課題の例と書いてありますが、人手不足という話もありますし、当然今、離職も多く、中途採用も取りたい。しかし、中途もなかなか、正直言うと、静岡県では取りづらい。特に技術や DX などのノウハウを持っている人たちは、どちらかというと東京でないと採用できない。だから会社としては、だんだんと東京近辺でそういう仕事を任せるようになってきている。
- ・今は新しい人たちも、人で選ぶ傾向があるのか、この人が良いからこの会社を選ぶという理由が大きい。人事制度も、今の多様化に合わせて変えていかなければならないという動きの中で、大手企業も同じような悩みを抱えています。また、自動車業界では、海外の研修生や

実習生の受け入れが厳格化されており、自動車関係が外されそうな雰囲気もあります。カーメーカーも調査を進め、申し入れをする動きもありますが、静岡での勤務を増やすために何をすべきか、大手としても同じ悩みを抱えていると思います。これが重要な課題です。

【山崎委員】

- ・やはり人材不足は深刻だと思います。国の政策として、転職を推奨していると思います。より良い職場、より高賃金のところに人が流れてしまい、働く人たちが気軽に転職してしまう傾向があります。
- ・最近、私も会社で面接をしていて感じるのは、まず「条件」を重視する応募者が多いことです。残念ですが、条件で入ってくる人は条件で辞めていくと感じています。給料が高いとか、休みが多いとか、そういった要因で選ばれ、それで辞めていくのはとても残念です。
- ・そうした状況に対して何をすべきかと考え、オープンファクトリーを始めました。発信力が大事です。ものづくりの会社の楽しさや良さを発信することが大切だと思います。もちろん、悪い点も発信するべきですが、仲間たちには「もっと発信しないと人は来ない」と言っているのに、なかなか伝えられません。今回、25社が参加してオープンファクトリーを実施し、自分たちが発信するとどうなるかを実感したのではないのでしょうか。ほとんどの会社が「やって良かった」と言っています。中途採用でも次の仕事に繋がったという話が出てきました。発信は人材不足に対応するための一つの方法だと感じています。中小企業が自助努力で人材不足に対応していくための一つの方法だと考えています。

【仁科委員】

- ・山崎さんたちが非常に良い取組をして、成果に繋がっているということでした。これにQRコードを付けませんか？ 応援会議や市の産業振興のサイトにスマホをかざすだけで情報へ飛ぶようにするのです。応援会議や中小企業支援に関してQRコードを使うことで、情報が発信されやすくなると思います。
- ・山崎さんのような取組や、他の皆さんの取組を市のホームページ、ポータルサイトで何かアイコンを作って紹介することはできないでしょうか。無理なら仕方ないですが、そういう方法もあると思います。良い取組を実行者ではなく、市が応援していることを示す窓口を市のホームページに設置することはできないかという提案です。
- ・竹内さんのBGMの話で少し盛り上がりましたが、会議はあまり盛り上がりたことが多くないですね。忘年会とか、もっとカジュアルな場でも本音の議論が出やすいのではと思います。
- ・静岡市の中小企業は業種や地域、職種、規模が違うため、その実態をどう把握しているのか疑問です。何らかの調査を行った方が良いのではないかと思います。これから新しい方向に進もうとしている時期ですから、実態を把握しておいた方が良いでしょう。

【青山座長】

- ・それを把握する話について、さっき振興条例の最後のところで、財政の話がありましたよね。別にお金が欲しいわけではないのですが、この会議でやることを、市の方から、今でもお墨付きいただいています。例えば、データ把握という意味で、よく調査やアンケートとかって言いますよね。専門家が言ってらっしゃると思いますが、この会議で、静岡市の方々が今どう思っているのか、起業家がどんな状況なのかといったことを、多分調査されていると思いますが、そういう調査もよくわかりません。

【山崎委員】

- ・実際に足を運んでいただくことも重要です。市の経済局の方にお話を聞くと、なかなか行けないとか、あまり知らないとか、やっと少しだけ訪問した、みたいな話ばかりで。

【事務局】

- ・ここ何年かはコロナ禍の影響でなかなか現場に行けないという状況もあります。そもそも日頃から企業誘致担当は年間何百社も訪問して話を聞くことをしていますが、商業振興の担当者も商店街などとの付き合いがあり、現場の声を聞いています。しかし、十分に回れているかというと、正直なところ役所の仕事も細分化が進んでおり、民間に任せた方がよい部分まで踏み込んでしまっているところもあります。組織がどんどん細分化されている中で、職員の数も減少し、一人にかかる業務負担が増えている現状もあり、現場に足を運ぶことが難しくなっています。それでも、時期によって繁閑がある中で、できる限り現場に行けるようにしています。現場の声をもっと吸い上げ、施策に反映していきたいと思います。
- ・また、市内企業の現況を把握するための調査として、元々行っているのは、3か月に1回、1,000社を対象に景況感や課題感といった調査を実施しています。これにはさまざまな業種、さまざまな規模の企業が含まれています。毎回の回答率は約40%で、約400社からの回答を得ており、その結果は3か月に1回Web上で公表しています。これは網羅的というよりも抽出調査ですが、市内の景況感を調べるための調査として行っています。ただし、それだけで足りるかどうかについては疑問もありますが、例えば、毎月全事業者に調査をかけるのは現実的ではないため、現在実施している景況調査の内容を補強したり、拡充したりすることを検討したいと考えています。

【仁科委員】

- ・静態的なフローの実態把握だけでなく、構造的な、つまりストック的な静態と動態、さらに実態と意識の違いを大きく分けると、2つの流れがあります。現在、さまざまな議論や事業、提案がある中で、今の状況を客観的データとして把握することが重要です。統計に関しては、全国の世論調査では大体2,000人程度の標本で実施されています。標本調査では、そんなにたくさんのサンプルは必要ありません。例えば、大きな鍋のスープを少量のお玉ですくっても、その味が鍋全体の味を反映していると考えられます。全国的な意識調査も大体2,000人ぐらいで実施されるそうです。
- ・また、役所が行う調査よりも専門的な調査機関を利用することで、予算的には1,000万円もかからずに実施できると思います。経費や技術的な側面も考慮し、何を把握しておくべきかという点について、今後の構造変化の萌芽を調べる必要があると思います。非常に良い取組が行われている中で、その基盤をしっかりと把握することが重要です。

【青山座長】

- ・先ほどの人手不足の話に戻ります。山崎さんのところでSNS活用塾というものがあり、そこで10社ぐらい行って勉強させてもらいました。うちの会社の20歳、21歳、40歳の3人で受けさせて、インスタを始めました。後ほど、別れ際に皆さんにQRコードを配らせていただきます。それはともかく、活用塾の講師さんが雛人形屋さんの4代目で、30歳です。彼のところがフォロワーが2万人いて、それでリクルートをやっています。

【仁科委員】

- ・前のところで、1人雇うのに、ハローワークや行政を通じて情報を発信しましたが、タウン誌を見て来たという方たちがほとんどでした。やり方の工夫によっては何かやはりあるのかなと思います。

【中野委員】

- ・うちは非常に人手が不足しています。せっかく共創というテーマがあるので、改めてお伺いしたいのですが、市でウェブ上で何らかのマッチングを行うようなものはありますか。

【事務局】

- ・ないと思います。どういうイメージですか。

【中野委員】

- ・要はビジネスマッチングです。

【高橋委員】

- ・我々のところでやっているものです。産学連携のコーディネーターが、起業家を訪問しながら企業の悩み事などを聞いて、こういうことをやりたいと。そういう方々はそういう人脈やネットワークを持っていますので、いろいろ繋がって、両者をくっつけていく。
- ・私は逆に、いろいろ声を出して、自分のニーズが何かを発信して、しかるべき人と相談しながら始めて、しかも何回も試行錯誤しながらやっていくということが必要だと思います。もちろんウェブはそんな中の一つの仕組みとしてはいいと思いますが、やはり最終的には人対人なので、そこでどの程度まで熱心にそういうことを聞いてくれるかどうかということになると思っています。特に金融機関なんかは、どこまで伴走型支援で入っていけるかどうかというところが肝だと思います。

【中野委員】

- ・我々の方でも、ビジネスマッチングを、今まではA支店B支店のお客さんのニーズを吸い上げて、この人と合うかなとやってやっています。新たにウェブ上のマッチングに数年前から取り組んでいる。マッチングで一番大変なのは、やはりAさんとBさんが出会うところまで。ウェブというのは、普段会えない社長に、とりあえずすぐアクセスできるという利点があります。最終的には、やはり人対人で、実際に会って話を詰めていくというのがゴールになると思いますが、その入口のきっかけを作るツールとしてはやはりウェブというのがすごく有効だと思います。なので、業種による違い、規模による違い、自分のいいところ、会社のいいところを発信したい。こういう人たちと組みたい。あと、その経営強化だけじゃなくて足元で何を困っているのかとか、それを全部網羅できるのがやはりウェブ上のプラットフォームだと思います。なので、産業振興プラットフォームというところで、ウェブ上でそういった出会いの場、課題解決の糸口となるようなものを、何かもし市で準備できれば、それがまた次の人が、立ち上げるのに人がかかるので大変ですが、立ち上げてしまえば、効率化も図れるし、出会いのきっかけの場が作れる。その後それを未来につなげていくというふうにやっていけば、もちろん、年間でいろんなイベントをやるのは素晴らしいことだと思います。それはそれでやっておいて、市の方でホームページ以外に、プラットフォームを組成できればすごくいいのかなと思いました。

【高橋委員】

- ・我々のところは静岡市の産業支援機関で、最初の頃は、静岡市にあるから静岡市の企業同士でのマッチングだとか、非常に狭いことを言っていた。ところが、今は広がり大きいし技術も進んでいる。アプリというものはもう全国共通ですので、静岡にたまたま本社がある企業といえども、小糸さんなんかもちろんですけども、山崎製作所さんたちも全国を相手にしている。そうなってくると、静岡だけの売り手買い手情報だけでは多分足りないのかなと。信金さんなんかですと、全国信金なんとかって別のネットワークもあるでしょうから、そういうのも使えますし、やはりお客さんのニーズというのは、日本全国、もしかしたら世界ですよ。行政というのはどうしてもそこで壁ができてしまうものですから、この辺で小さくまとめてしまおうとすると、そこで限界があるかなというのが今聞いていて気になりました。

【山崎委員】

- ・県のプラットフォームがあります。私も最初から入っていましたが、活用できていないとか、活用しにくい。だから、市が独自にそこに予算を投じるのは考えものだと思います。

【仁科委員】

- ・国際交流協会のときに外国人の就業希望者と雇用者をマッチングする無償職業紹介をしていました。1年かけて厚生労働省の認可を取りました。ただ、今の話の中で、役所がやる分には問題ないと思いますが、職業紹介には意外と規制があります。

【青山座長】

- ・ウェブをもっと活用しようという流れですが、SNSをよく使っている世代として、鈴木さんどうですか。

【鈴木委員】

- ・僕が生まれたときには携帯がありました。もう30代ですが、SNS活用塾も行かせていただきました。今の子どもたちはSNSが名刺代わりですから、例えば何か新しい商品ができたなら、まずSNSでその商品を検索して、評価を見てから実際に購入するか決定すると聞いて、自分もその世代なくせになんか今どきだなと感じています。だからそういう意味で、企業の発信力を求めている。そういう会社に入りたい。確かにSNSというのは魅力的で、それを使っていく会社の流れに沿った人材が集まるのかもしれませんが。同じ共通点を持っているという意味では、そこは良いと思いますが、やはりその中に僕が考えている柱として地域愛や企業愛がある。SNSを活用するのはいいですが、アナログでもデジタルでもどこまでそれを感じさせるよう自分たちでできるかというのが企業目線であり、わが社はどうしたらいいかと悩んでいるところです。弊社もちろん人手不足で、弊社は営業職ですが、それに限らず配送業もまた今いろいろ大変ですけど、これまた人手不足でいろいろやっているところなものですから、いかに静岡という地で働きたいと思ってもらえるようにしていけるかというのが僕の考え。

【竹内委員】

- ・SNSがいい悪いとかウェブがいい悪いとかというよりも、そこに結局何を載せるかという話だと思います。ウェブに載せるということは、商品を百貨店に出すようなもので、みんなに見てもらえるけど、世界中の商品と並ぶわけですから、その中で選ばれるものがあるかというところがそもそもの問題だと思います。その「もの」というのは何かといったときに、静岡愛に溢れた面白い人の数とか、その相場が集まっていれば、百貨店に静岡市として出品してもいいと思いますし、それが別にバラバラであるんだったらもうバラバラでSNSを出して、この会社にA社は来たいというのも発生しているので、彼らはあえてプラットフォームに載せる必要もないと思っているかもしれませんよね。なので、まず何があるにしても、面白い人がどのぐらいいるのかとか、面白い会社がどれぐらいあるのかというのが、皆さんの頭の中とか、ここに材料としてないと、みんなで集まる意味があまりないかもしれないし、逆にあるんだったら、集まっていいと思う。その後はSNSで使うかどうかは、その人材を採りたい相手によると思っていて、やはりDXの人材を採りたいと、若者を採りたかったらSNSだと思います。逆に私達が今欲しい人材は、清掃のおばちゃんであり、もっと言うと80代とかに頑張ってもらいたいと思っています。80歳になっても働ける仕事が少ない中で、清掃はものすごくいいんじゃないか。しかも生き生き働いている人がいて、その人た

ちに聞くと、健康のためにやっているというんですね。健康のためにやって働いている。しかも何かちょっとここ最近何が悩みかとか、カッコいい制服にしてほしいとか、最近そういうことを言っているんですよね。人に見られたときに、そういうふうにしたいとか、それが口コミで広がるという話は、たぶんSNSとは真逆のところですが、地域の中で、常に健康的でカッコよくいさせてあげて、すぐ近くにいる人が見えるとか、家族だけが見ていいねって言うてもらうことが実はものすごいモチベーションだったりすることもあるので、SNSがいいかどうかというのは、どういう人材を取りたいかが明確化されていれば良いのかなと思います。

【手塚委員】

- ・求人の方法は多様化していますが、電子化という話になったときに、製鉄業の皆さんは違うと思います。まだまだ会社にパソコンがなくてFAXで送らなければいけない会社も実際あって、今システム化とかクラウド化をしようとしたら、携帯が一番普及する。パソコンがなくても携帯がない会社はないだろうというところがありますので、やはり携帯でいろいろ発信するというのを考えていった方が普及のためには大事なのかなと。

【青山座長】

- ・せっかく出していただいたので、2番目の、隙間時間を活用した労働力。これは私が言いましたが、介護住宅改修というものを始めたんですね。対象は主婦。午前中2時間だけでもいいからというので、要するに介護住宅の改修なので、手すりとか、階段の段差の改修とかを行う。そんなに職人の知識とか技能が必要ないので、働きたい人に合わせた時間設定をするやり方で取り組んでいます。人手不足ではありながらも、逆に今こういう状況でこういう仕事の仕方だったら働けますよということで、面白いなと思っています。竹内さんがおっしゃった80代の話は、介護の事業をしているので特にそれは思います。働いているということが、お金じゃなくて、働いて必要とされるということが、その人のエネルギーの源みたいなのところもある。そうするとさっきのSNSでなくて、チラシもありだなと思っています。

【桐野課長】

- ・久々のリアルな会議、熱いというか、ひりひりするというか、我々もかなり刺激を受けて、昨今ない会議だったと思っております。今回共創というテーマということで、初めて事務局とも相談しながらテーマを設定しました。今回この共創という考え方が第3次産業振興プランの中で非常に大きな位置を占めています。新しい取組、これから、地域課題を解決していくためだとか産業の振興のためにはやはり共創という考え方はターゲットに取り入れていく必要があるのだろうという中では、なかなかそのテーマに沿ったご意見が出たのかなという気もしますが、ちょうど我々の方の役所で言いますと、市長が久々に変わりまして、この中に社長さんもいらっしゃるわけですが、社長が変わるとここまで組織が変わるのかと。新しい市長のこの共創という概念に関しては、市政運営にとっては必要なものだということで共創の理念を持っていたりして運営していくということを申しておりますので、今後、静岡市としてもこの共創という動きをもって、市政運営、産業振興というのをこれまで以上にいろんな方を巻き込みながら解決をしていく、取り組んでいくということになろうかと思っています。そんな中で、特に、隙間の時間を活用したというのは、要はそこに今まで行けなかった人が来られることにもなりますし、この時間を活用して新たな価値が創造されるということにも繋がってきますので、人と時間との共創という、違った意味での共創という考え方もできるのかなと思っています。いずれにしてもこの応援会議というのは、

我々行政主導ではなく、中小企業を取り巻く皆さん、関係者の皆さんが熱い思いを持って、市にこうしろああしろと、お前らこれでは足りないぞというところを、発言をしていただいて、我々もそれを踏まえて、次の施策に取り込んでいくというところになろうかと思っておりますので、引き続き、厳しいご意見を、どんどんいただければなというふうに思っております。

【青山座長】

- ・今課長がおっしゃった、ああしろこうしろということもそうかもしれませんが、要するにイーブン、イコールパートナーとしてああしろこうしろというふうなことができたらいいなと思います。そういう意味でこういうオフィシャルな会議だけでなく、ちょっとアンオフィシャルなこともできたらいいなと思いつつコロナになってしまっただけに今に至りますが、やはりひとりの静岡市民、人間としての繋がりというものをすごく感じます。いろんなアイデアや意見を世代問わず、ポジション問わず言うことができればいいなということを感じながらお聞きしていました。

【竹内委員】

- ・皆さんありがとうございました。やはりリアルな会議は良いなと思ひまして、やはりこういうさっきの熱量とか、そういうものは空気の中に入ってくるものなんだと感じました。それがさっき言ったウェブ上とリアルの違いとかそういうところにもあると思います。やはりこういう場ができる必要があると思います。共創というテーマがありましたけど、共創といっても多分こういう中から必ず生まれるだろうと。共に何を創るのかということのをさっき考えていまして、それが今回この会議のテーマをつけるとすれば静岡愛だと思ひて、共に静岡愛を創るということがテーマとなったときにここにいるメンバーに何が出来るか。一緒に人材を育成していくという立場かもしれないし、一緒にイベントをやってみようということかもしれないし、それ以外の様々なことがあるかもしれませんが、そういう一つキーワードというか、キャッチコピーみたいなものが、多分ここにできたのかなと。共に静岡愛を創る、そのために私達が何をやっていくのかという、本当に目の前にある課題とともに、議論をここでいっぱい交わして、それを聞いた行政側が提案するというのが一番いい形かなと。こちらから提案するよりも、こちらで戦わせた議論の中で、最後提案をいただくとか、そういう形になると本当に未来的な、応援会議という形になっていくのかなと思ひました。また次回よろしくお願ひします。

【事務局】

- ・事務局から簡単ですが手続についてお知らせしますと、本日の議事録はまた作成をさせていただきます。後日、委員の皆様にも確認の依頼をお送りいたしますのでご協力をお願いいたします。それでは閉会に際しまして改めて、産業政策課の桐野課長から一言挨拶をお願いします。

【桐野課長】

- ・大変長時間にわたり熱いご議論ありがとうございました。冒頭座長の方からお話がありましたが、この会議は、条例に基づく、大変格式高い方会議です。引き続き格式高く、また熱い議論をお伝えくださいますようよろしくお願ひします。誠にありがとうございました。

【事務局】

- ・会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。